

1977年の全世界的SF映画ブームにさきがけてGWに放つ堂々3時間の超巨篇！

名作『僕の村は戦場だった』と『アントレイ・ルブリョフ』でソ連映画の惑星と謳われる…

巨匠アンドレイ・タルコフスキイ監督作品

「72カンヌ映画祭・審査員特別賞・受賞

SOLARIS

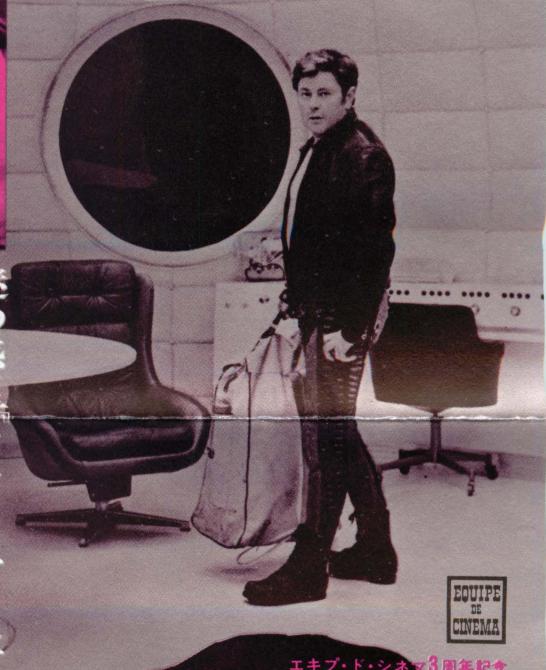
シネマスコープ・カラー作品

惑星ソラリス



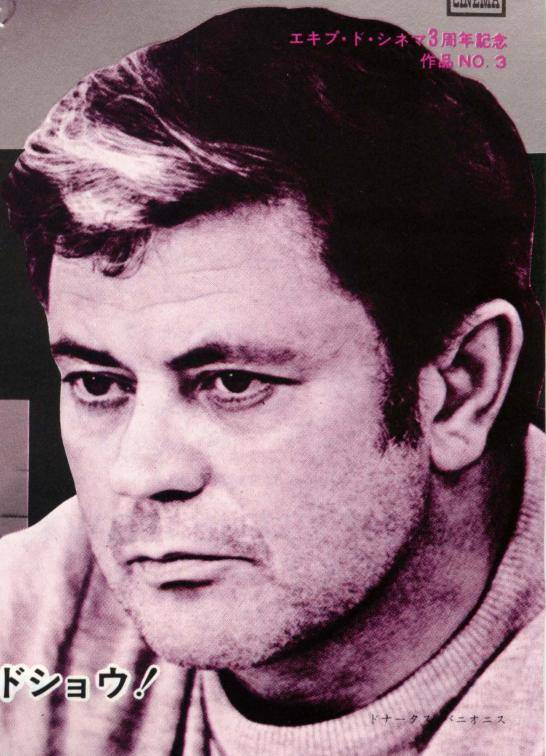
モスフィルム
1972年度作品
SOVEXPORTFILM
日本海映画
・提供・

ナタリヤ・ボンダルチク



EQUIPE
DE
CINEMA

エキブ・ド・シネマ3周年記念
作品 NO. 3



●原作●

スタニスラフ・レム(ポーランドSF作家)
脚色アンドレイ・タルコフスキイ/F・ガレンシュテイン
撮影ワジム・ユーソフ

●主演● ドナタス・バニオニス
ナタリヤ・ボンダルチク

ユーリー・ヤルベト/アナトリー・ソロニーツィン
ウラジスラフ・ドボルゼッキー/ニコライ・グリニコ



●4月29日より 岩波ホール GWロードショウ！

ドナタス・バニオニス

謎と神秘の宇宙！ 今ぞまみえる初のソ連SF映画・驚異の超巨篇！



SOLARIS

惑星ソラリス

●傑作『2001年宇宙の旅』に比肩する新しいSF芸術映画がソ連から打ち出された！ この作品は、未知の世界・宇宙の神秘に挑む人類への警鐘を打ち鳴らす！

原作は、ポーランドのSF人気作家スタニスラフ・レムで、これは、彼のベストセラーロングセラー長篇小説『ソラリスの陽のもとに』の映画化である。彼は「宇宙では未知なものが我々を待っている。だが、宇宙は、銀河系の規模にまで拡大された地球では決してない。それは質的に全く新しいものである」と言い、宇宙の神秘への挑戦は、人間の道徳的な進歩と深くかかわっている、というテーマを打ち出して、それが人間の心と愛の再認識の命題に帰結することを力強く我々に訴える。

監督のアンドレイ・タルコフスキーとフリードリヒ・ガレンシュテインの協同脚色で、撮影はワジーム・ユーソフ、音楽はエドアルド・アルテミエフという強力な一流スタッフ。出演者は『ゴヤ』のドナータス・バニオニスのほか、日本でもお馴染みの演技陣が顔を揃えている。ソ連モスフィルムの1972年作品で2部作17巻、上映時間3時間の超大作！

●4月29日よりGW特別大公開！

| 上映時間表 | 1回目 | 2回目 |
|----------|------------|-----------|
| 平日(月～土曜) | 1:30-4:30 | 6:30-9:30 |
| 日曜・祝日のみ | 12:00-3:00 | 4:00-7:00 |

☆ 上映期間中の各火曜日の6:30の回は休映します(5月3日の祝日に限り上映)

● 特別鑑賞券(1500円のところ)1000円！ ただいま『岩波ホール』にて好評前売中！

入替え制／自由定員制

当日(一般・学生)1500円
<土・日・祝は日時指定制>



エキップ・ド・シネマ
3周年記念・第3弾！

モスフィルム1972年作品
SOVEXPORTFILM提供
日本海映画・配給



●タルコフスキーは未来都市の舞台として東京をロケ地に選んだ。そのエキゾチックな街の夜景の妖しさがカンヌ映画祭で大喝采を博し、今や世界の話題映画！

映画はプロローグ(地上の現実)とエピローグ(惑星での未来)を持つ3時間の大長篇で、ドラマは主として惑星ソラリスに到達した宇宙船の内部で凄絶に繰り展げられる。

心理学者クリス(ドナータス・バニオニス)は重大な任務を帯びて惑星ソラリスに近づいて行く。同行者は物理学者のサルトリウスと医師のスナウトの2人。クリスは、船内に居る筈もない美しい女の姿を或る日発見する。しかも彼女は数年前に若くして死んだ彼の妻ハリー(ナタリヤ・ボンダルチク)その人であった！ ク里斯の驚き！

ソラリスの海は、理性を持つ奇怪な有機体で、地球から来た人間の脳裡に潜在する欲求を物体化する不思議な超能力を持っていた。その1つがハリーで、彼女はクリスのことをすべて生々しく記憶していたのだ。ソラリスの海の謎の解明にクリスはふるい立つ……。

エキップ・ド・シネマ/ロード・ショウ劇場

岩波ホール

地下鉄<都営6号線>神保町／国電<中央線>水道橋・下車

岩波ホールチケットガイド及び都内の各プレイガイド